

第8回 柏崎学シンポジウム 誌上報告

外とのヒト・モノ・コトのつながりをつくる！を考える

人口減少に対応する創造的な地域活動の視点(第3弾)く

文責 新潟産業大学付属柏崎研究所 主席研究員 春日 俊雄

第8回 柏崎学シンポジウムは、第6回からの基本テーマ「人口減少が進む中でも幸せ感を育む！を考える」に基づいて第1弾(2023年)「地域の新しい価値を創る！を考える」、第2弾(2024年)「既

主催／新潟産大附属柏崎研究所 期日／令和7年11月30日 会場／新潟産業大学

第1部 地域からの活動報告

地域内の先駆的事例から

外とのつながりを考える

ポイント！ヒト&コトのつながりをつくる

中村 圭希氏

雪国ボランティア受入れ事務局長

「連合東京雪国ボランティア活動は、『連合東京』結成5周年の新たな社会貢献として1995年2月にスタートし、今日まで継続している。活動内容は高齢者世帯の軒下除雪で、夜には地区において交流会が行われている。同活動は昨年30周年を迎え、柏崎市長及び高柳地区連合会長から感謝状が贈られた。これらの活動の中で①雪掘りが喜ばれたこと②若い人達の活動で地域が明るくなったこと③雪国生活に対するリスクトが生まれたこと④青年委員会内の交流の機会になつてることなどの成果を上げている。そしてボランティア体験↓交流↓つながり↓移住者も生まれた」

ポイント！コトのつながりをつくる

橋本 紫乃氏

カフェ陽の楽家 店長

「2000年に建築家の隈 研吾氏が設計した自然素材(かやぶき屋根・門出和紙を用いた内外装)を活用した交流施設を2022年に新潟県のふるさと納税型



中村 圭希氏



橋本 紫乃氏



栃堀 佳倫氏



中村 奨氏



鈴木 輝隆氏



岩佐 十良氏



櫻井雅浩 柏崎市長のメッセージ

ポイント！モノ&コトのつながりをつくる

中村 奨氏

株式会社ハク 代表取締役

「2020年地元農産物の直売所にカラダとココロと地域が喜ぶお弁当屋をオープン、2021年には市役所新庁舎の売店として柏崎で作られたものだけを集めたアンテナショップを2店目としてオープンした。そして2023年から『ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会』で有料観覧席に提供される約5000食の柏崎花火弁当業務を統括。2024年にパンビー(レストラン&バー)を柏崎駅前の商店街に空き店舗を改装してオープンし、委託を受けてメニュー開発、調理など店舗管理を行っている。店頭販売のお弁当のほか人間ドックの健診弁当やヴィーガンなど食の多様化にも対応。更にお弁当屋の自由度や変幻自在さを活かし、新たな可能性に着目して実践している」

第2部 外とつながる具体的な提案

専門的な知見から外とのつながりと

その意義や効果を考える

テーマ 地域内外の“人”を活かす

鈴木 輝隆氏

江戸川大学名誉教授、立正大学研究推進・社会貢献センター チーフプロデューサー、東川町魅力創造アドバイザー、ローカルデザイン研究所LODZの代表

鈴木輝隆氏は現在の時流を、地方は厳しい状況にあるが首長や自治体職員の探求志向や実行力から元気な地域が生まれ、多様なつながりが未来を創造する。そして時代は大きく変化し、既存意識や常識では時代の変化に対応できない。寛容、丁寧、親切、スピード、外とのつながりが大事で、共存・共感から新たな発見が起ころと語った。北海道東川町(人口約87000人、行政職員80名)の事例を取り上げ、同町では地域おこし協力隊約80名、地域活性化企業人10名、国際交流員20名の合計110名が準国家公務員として活動している、地域と職員の活力向上に大きな役割を果たしているとした。また個人版ふるさと納税(株主制度)において令和6年度に約26億円になったこと、オフィシャルパートナー(未来を育む社会システムの共創を目的

存組織の機能アップ&市民共創による日常の豊かさをつくる！を考える」につづき開催した。

今回のシンポジウムには、対面・オンラインを含め約80名が聴講した。

クラウドファンディングの支援を受け、内外装をリニューアルしてカフェ陽の楽家をオープンした。柔らかな空間と居心地の良さに加えて、茅葺をイメージしたスィーツと地元産の旬な食材やご縁のある方の食材、荻ノ島のお母さんが作った野菜などを活用したメニューが人気で、県内外からの来訪者が多い。営業日は土日、祝日で冬季(12月～5月頃)は休業している。地域のショールームとして器や食材、手作り品などをメインに扱っている。敷居を低く、地域の入口として有り続けることを目標にしている」

ポイント！モノ&コトのつながりをつくる

栃堀 佳倫氏

株式会社越後みそ西 専務取締役

「1831年に醤油醸造業を創業。1999年に現在の越後みそ西が設立した。主要な製品は、三階節みそ、醤油、味噌漬(14種)、甘酒、塩こうじたれ等々である。柏崎の風土とそこから育まれた『いのち』、永年研鑽されてきた知恵と心を郷土の“たから”と捉えて未来に伝えることを経営理念に『食は地域のアイデンティティにつながる！』として全国に発信している。ふるさと産品を本格的な経済活動として、外にっなげていくのは大変難しいと言われる中で『柏崎の味』として県内外に広く喜ばれている。また、工場見学やみそ造り教室・みそ玉作りワークショップ、地元菓子メーカーや飲食店とのコラボ、オープンファクトリー感謝祭など精力的に活動している」

としたパートナーシップ企業)が54社となり、様々な町事業へのサポート及び共同開発に取り組んでいることなど外とのつながりについて事例を交えて提案した。

テーマ 地域の“価値”を活かす

岩佐 十良氏

株式会社自遊人 代表取締役
株式会社ミロ 代表取締役

岩佐十良氏は地域の価値を活かす提案として「ガストロノミーツーリズム」を取り上げ、観光業の世界成長率は5%～6%、ラグジュアリーツーリズムが7%～9%であるのに対してガストロノミーツーリズムは15%～18%と高い成長率を示していると語った。これは単なるグルメ旅行や食べ歩きではなく、食から文化を感じる旅でフード&カルチャー+農+アクシヨンの要素からなる「文化と食が結び付いた複合体」を楽しむ旅と位置づけた。そして地域のマーケティング戦略としてスペインのサンセバスチャンを例に星付き10軒のクオリティが高いバル(居酒屋)が地域全体のイメージを構築し、「バスク料理を守るうよー」と呼びかけて、地域文化を感じるように取り組んでいるとした。また、2022年以降においてウエルネス&リトリートが急速に広まっており、健康・精神・風土を重視した軽い食事と養生がポイントとのこと。また伝える手段は写真から映像(動画)へと述べた。

※1 ウエルネス…毎日をより良く生きるための健康維持・増進に向けた生活態度全般
※2 リトリート…日常生活から一時的に離れ。心身をリフレッシュし、自分自身と向き合うための滞在や旅

聴講者からのコメント

○地域づくりのキーワードの一つは、“食”であることは間違いないと思った。そのために農業は守っていかないと。と思った。(40代男性)
○貴重な話が聞ける機会となった。学び、実践するよう今後も精進しようと思った。(40代男性)
○大変面白く聞かせていただいた。これからの活動につながる学びが多くあった。(50代女性)
○東川町に行ってみたと思った。(30代女性)
○良い刺激になった。物事の見方、価値観の種類、捉え方など大変勉強になった。(40代男性)
○素晴らしい熱のこもった話が聞けて元気をもらった。今までの中で一番感銘を受けたシンポジウムだった。(50代男性)